

開講年度：2026

科目名	視覚器	題目（副題）	
担当教員、教員連絡先内線	村田 敏規 他		
学年、講義期間、曜日・時限	前期（随時） 火曜・4時限 火曜・5時限 火曜・6時限 金曜・4時限 金曜・5時限 金曜・6時限		
単位数、講義室	1 単位	医学科第 2 臨床講堂	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素 ⇄		授業達成目標
	M21カリ・医学		
	患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。	⇄	・眼球・眼付属器の解剖、生理、機能を理解し、「見える」ためのメカニズムを学ぶ。
	疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。	⇄	・眼科主要疾患の症候、所見を学ぶ。
	M26カリ・医学, M25カリ・医学, M24カリ・医学, M23カリ・医学, M22カリ・医学		
	＜基礎的・専門的な知識と技能＞疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技能を修得している。	⇄	・頻度は低いが知っておくべき眼科疾患の症候、検査所見を学ぶ。
	＜問題解決力＞患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して適切に判断し必要な行動ができる。	⇄	・診断に際し必要な検査と鑑別すべき疾患を学ぶ。 ・それぞれの疾患について適切な治療を学ぶ。
臨床実習前の到達目標	・必要な課題を発見し、他の学習者や教員と協力してより良い具体的な解決方法を見出すことができる。 ・講義、教科書、検索情報などを基に、自らの考えを示すことができる。 ・必要最低限の病歴を聴取し、基本的な身体診察を行うことができる。 ・研究は医学・医療の発展や患者の権利の増進のために行われることを説明できる。 ・生命科学の講義や実習から得られた情報や知識を基に疾患の理解・診断の深化につなげることができる。 ・生涯学習の重要性を説明でき、継続的学習に必要な情報を収集できる。 ・信州の医療圏の特徴を説明できる。		
授業で学べる「テーマ」	その他		
全学横断特別教育プログラム	ストラテジー・デザイン人材養成コース、ライフクリエイター養成コース		
授業のキーワード	眼科学、視覚器、視機能、眼疾患 実務経験のある教員による授業科目		
授業の概要・一般目標	D-13-1) 眼球と付属器の構造と機能を説明できる。 D-13-2) 診断と眼科検査の基本を説明できる。 D-13-3)-(1) 眼・視覚系に関する主要症候を説明できる。 D-13-3)-(2) 眼科と関連するその他（視覚障害以外）の症候を説明できる。 D-13-4)-(1) 眼・視覚系の良性（非腫瘍性）疾患を説明できる。 D-13-4)-(2) 眼科領域の腫瘍性疾患を説明できる。		
テキスト、教材、参考書	・標準眼科学（医学書院） ・現代の眼科学（金原出版） ・イラスト眼科（文光堂） ・病気がみえる 眼科（メディックメディア） ・Kanski's Clinical Ophthalmology (Elsevier)		
履修上の注意	・自主性を重んじる。 ・講義中の私語など、他の学生の迷惑になることは慎むこと。		
授業の形式、視聴覚機器等の活用	対面式のデジタルプレゼンテーションによる講義を行う。		
成績評価の方法	1 試験の60%以上の正解者を合格とする。 2 諸般の事情により、上記を変更する場合は周知する。 試験では、本授業の学修目標への到達度および今後に必要な知識が定着しているかを確認します。		
成績評価の基準	総得点の60%以上の正解者を合格とする。 内訳は		

成績評価の基準	90－100点：卓越している（難しい応用問題やを解答できる） 80－89点：かなり上にある（やや難しい応用問題を解答できる） 70－79点：やや上にある（応用問題を解答できる） 60－69点：合格水準にある（授業における重要点を理解している） とする 全ての回に出席することを基本とします。この授業の達成目標に到達するために必要な出席回数（およそ8割程度）に出席が満たない場合は、単位を認めない場合があります。欠席した場合の学修補充については、医学部医学科履修及び試験内規に従います。
事前事後学習の内容	・各授業前にSB0の内容を予習してください。 ・4年生後半から始まる臨床実習は、学生さんがこの講義内容を理解しているという前提で行っています。 本授業の単位修得には21時間分の時間外学修が必要です。
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー（質問，相談への対応）	・眼球は直径23mm前後と小さなものですが、「眼は小宇宙」と言われるほど神秘的であり、その機能は生理学的にも複雑に、そして巧妙に制御されています。そして、まだわからないことも多くあります。この小さな臓器の奥深さを、そして「見える」ということのありがたさと重要性を学ぶと同時に、眼疾患に罹患した患者さんをどのように診断し、治療していくかを理解してほしいと思います。 ・自ら学び、自ら考える習慣をつけてほしいので、手取り足取りの指導はしません。授業やテキストを参考にして、自らの眼科学を作り上げてください。わからないところがあれば、どんどん質問してください。 ・最低限の基本的事項を暗記することは必要ですが、片っ端から丸暗記するのではなく、病態を理解しながら学ぶよう心がけてください。診療の現場では、教科書通りに診断・治療できる症例ばかりではないため、暗記のみの知識で診断治療に携わることは不可能です。病態を正しく理解していることが、正しい診断・治療に結びつく第一歩となります。 ・質問・相談への対応：ieganka@shinshu-u.ac.jp（対応に数日要する場合もあります）

授業日	第 1 回	6月26日(金 4)	SB0s	D-13-1)
講義室	医学科第2臨床講堂			①眼球と付属器の構造と機能を説明できる。 ②視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。 ③眼球運動のしくみを説明できる。 ④対光反射、輻輳反射、角膜反射の機能を説明できる。
G10	視覚器の構造と機能 I (基礎) 1) 眼球および付属器の構造を理解する。 2) 視路を理解する。 3) 眼球運動を理解する。 4) 眼反射の概略を理解する。			
担当	平野 隆雄			
授業日	第 2 回	6月26日(金 5)	SB0s	D-13-1)
講義室	医学科第2臨床講堂			①眼球と付属器の構造と機能を説明できる。 ②視覚情報の受容のしくみと伝導路を説明できる。
G10	視覚器の構造と機能II (臨床) 1) 臨床的に眼球および付属器の機能を理解する。 2) 臨床的に視路の概略を理解する。			
担当	平野 隆雄			
授業日	第 3 回	6月26日(金 6)	SB0s	D-13-2)
講義室	医学科第2臨床講堂			①基本的眼科検査（視力検査、視野検査、細隙灯顕微鏡検査、眼圧検査、眼底検査）を列挙し、それらの原理と適応を述べ、主要所見を解釈できる。
G10	診断と検査の基本 1) 眼科検査の特殊性を理解する。			
担当	平野 隆雄			
授業日	第 4 回	6月30日(火 4)	SB0s	D-13-3)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			①眼・視覚系に関する主要症候（視力障害、視野異常、色覚異常、眼球運動障害、眼脂・眼の充血、飛蚊症、眼痛）を列挙し、それらの発生機序、原因疾患と治療を説明できる。 D-13-4)-(1) ①屈折異常（近視、遠視、乱視）と調節障害の病態生理を説明できる。
G10	症候 1) 眼科の基本的な症候を理解する。 屈折異常と調節障害 1) 屈折異常と調節障害を理解する			
担当	時光 元温			
授業日	第 5 回	6月30日(火 5)	SB0s	D-13-4)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			②感染性角結膜疾患の症候、診断と治療を説明できる。 ○角結膜の解剖・機能・生理の特殊性を説明できる。 ○流行性角結膜炎の症候、診断と治療を説明できる。 ○感染性、とくに細菌性角膜潰瘍の症候、診断と治療を説明できる。
G10	角結膜疾患 1) 角結膜の解剖・機能・生理を理解する。 2) 代表的な角結膜疾患を理解する。			
担当	時光 元温			
授業日	第 6 回	6月30日(火 6)	SB0s	D-13-4)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			③白内障の病因、症候、診断と治療を説明できる。 ○水晶体の解剖・機能・生理を説明できる。
G10	水晶体疾患 1) 水晶体の解剖・機能・生理を理解する。 2) 白内障を理解する。			
担当	時光 元温			
授業日	第 7 回	7月 3日(金 4)	SB0s	D-13-4)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			⑦ぶどう膜炎の病因、症候、診断と治療を説明できる。 ○ぶどう膜の構造と機能を説明できる。 ○サルコイドーシス、バーチェット病、原田病の症候、診断と治療を説明できる。
G10	ぶどう膜炎 1) ぶどう膜の解剖と機能を理解する。 2) 主なぶどう膜炎の分類、症候、診断、治療を理解する。			
担当	松田 順繁			
授業日	第 8 回	7月 3日(金 5)	SB0s	D-13-4)-(2)
講義室	医学科第2臨床講堂			腫瘍性疾患 ①網膜芽細胞腫の症候、診断と治療を説明できる。 ○生後から小児期における視機能の発達を説明できる。 ○斜視および弱視の定義、症候、診断、治療を説明できる。 ○未熟児網膜症、先天緑内障、先天白内障の症候、診断と治療を説明できる。
G10	小児眼科 1) 網膜芽細胞腫を理解する。 2) 乳児、幼児、小児における視機能の発達を理解する。 3) 小児期に特有な眼疾患を理解する。			
担当	松田 順繁			
授業日	第 9 回	7月 3日(金 6)	SB0s	・臨床症例を提示するので、診断・治療についてdiscussionする。 ・担当教官の都合等により行うことができなかった講義があった場合には、その講義を症例検討にかえてこの時間に行う。
講義室	医学科第2臨床講堂			
G10	予備・症例検討			
担当	松田 順繁			
授業日	第 10 回	7月 7日(火 4)	SB0s	D-13-4)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			④緑内障の病因を列挙し、それらの発症機序、症候と治療を説明できる。 ○房水の産生から流出までの経路を説明できる。 ○緑内障を閉塞隅角緑内障と開放隅角緑内障に分類できる。 ○緑内障を急性緑内障と慢性緑内障に分類できる。 ○慢性緑内障に特徴的な視機能障害を眼底所見と関連づけて説明できる。 ○正常眼圧緑内障を説明できる。
G10	緑内障I 1) 房水を理解する。 2) 閉塞隅角緑内障を理解する。 3) 開放隅角緑内障を理解する。			
担当	北原 潤也			

授業日	第 11 回	7月 7日(火 5)	SB0s	D-13-4)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			④緑内障の病因を列挙し、それらの発症機序、症候と治療を説明できる。 ○緑内障の点眼治療、限界を説明できる。 ○緑内障手術の適応および作用機序・適応・限界を説明できる。
GI0	緑内障II	1) 緑内障の薬物療法を理解する。 2) 緑内障の手術療法を理解する。		
担当	北原 潤也			
授業日	第 12 回	7月 7日(火 6)	SB0s	D-13-4)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			⑩網膜静脈閉塞症と動脈閉塞症の症候、診断と治療を説明できる。 ○黄斑部網膜の解剖と機能を説明できる。 ○加齢黄斑変性と類縁疾患の症候、診断と治療を説明できる。 ○網膜色素変性と類縁疾患の症候、診断、と治療を説明できる。
GI0	網膜疾患（薬物療法）	1) 黄斑部の解剖と機能を理解する。 2) 網膜循環障害を理解する。 3) 加齢黄斑変性と類縁疾患を理解する。 4) 網膜変性疾患を理解する。		
担当	吉田 紀子			
授業日	第 13 回	7月10日(金 4)	SB0s	D-13-4)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			⑤裂孔原性網膜剥離の症候、診断と治療を説明できる。 ○網膜疾患における硝子体の関与を説明できる。 ○硝子体出血、網膜前膜、黄斑円孔などの網膜硝子体疾患の症候、診断と治療を説明できる。
GI0	網膜疾患（手術療法）	1) 硝子体の解剖と機能を理解する。 2) 手術を要する網膜硝子体疾患を理解する。		
担当	平野 隆雄			
授業日	第 14 回	7月10日(金 5)	SB0s	D-13-4)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			⑥糖尿病・高血圧・動脈硬化による眼底変化を説明できる。 ○糖尿病網膜症の病態と病期を説明できる。 ○糖尿病網膜症の治療を病期ごとに説明できる。 ○高血圧・動脈硬化性眼底の病態と病期を説明できる。
GI0	糖尿病・高血圧による眼底変化	1) 糖尿病網膜症を理解する。 2) 高血圧性眼底・動脈硬化性眼底を理解する。		
担当	平野 隆雄			
授業日	第 15 回	7月10日(金 6)	SB0s	D-13-3)-(2)
講義室	医学科第2臨床講堂			②（眼圧上昇による）頭痛・頭重感を説明できる。③（眼圧上昇による）悪心・嘔吐を説明できる。
GI0	眼科救急	1) 眼圧上昇時の症候を理解する。 2) 眼科救急疾患の診断、治療を理解する。		D-13-4)-(1) ⑨アルカリ、酸による化学損傷の症候と救急処置を説明できる。 ○いわゆる「急性緑内障発作」の症候、診断を説明できる。 ○眼科救急疾患を他疾患と鑑別できる。 ○眼科救急疾患の治療を説明できる。
担当	平野 隆雄			
授業日	第 16 回	7月17日(金 4)	SB0s	○眼窩の解剖・機能を説明できる。 ○眼窩疾患の症候、診断と治療を説明できる。 ○外眼筋の解剖・機能、支配神経を説明できる。 ○眼球運動障害をきたす疾患の症候、診断と治療を説明できる。 ○正常の瞳孔反応を説明できる。 ○瞳孔異常の原因を説明できる。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	眼窩疾患・神経眼科I	1) 眼窩の解剖、眼窩疾患を理解する。 2) 眼球運動障害による複視をきたす代表的疾患を理解する。 3) 瞳孔異常を理解する。		
担当	黒川 徹（まつもと医療センター眼科）			
授業日	第 17 回	7月17日(金 5)	SB0s	D-13-4)-(1)
講義室	医学科第2臨床講堂			⑧視神経炎(症)・うっ血乳頭の病因、症候と診断を説明できる。 ○視神経炎とうっ血乳頭を鑑別できる。 ○視神経炎を分類し、治療を説明できる。 ○中毒性視神経症の原因と治療を説明できる。 ○機能性視力障害を診断できる。
GI0	神経眼科II	1) 視神経疾患と類縁疾患を理解する。		
担当	黒川 徹（まつもと医療センター眼科）			
授業日	第 18 回	7月17日(金 6)	SB0s	・臨床症例を提示するので、診断・治療についてdiscussionする。 ・担当教官の都合等により行うことができなかった講義があった場合には、その講義を症例検討にかえてこの時間に行う。 ・授業のふりかえりを入力する。
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	予備・症例検討			
担当	黒川 徹（まつもと医療センター眼科）			
授業日	第 19 回	7月24日(金 4～5)	SB0s	マークシート方式の予定
講義室	医学科第2臨床講堂			
GI0	試験			
担当	村田 敏規、松田 順繁			